

6-1 診療計画・クリニカルパス

当院におけるアルコール性肝障害患者の検討

1 くすの木病院 消化器肝臓内科, 2 くすの木病院 患者支援センター, 3 くすの木病院 臨床研究部, 4 くすの木病院 診療情報管理室

たかぎ ひとし

○高木 均 (医師)¹, 高草木 智史¹, 小曾根 隆¹, 横山 洋三¹, 木澤 和子¹, 丸橋 恭子¹, 矢代 裕麻², 當間 美由紀³, 坪井 千晶⁴

【背景・目的】 C型肝炎が撲滅の兆しが見える中、アルコール性肝障害、特に肝硬変、肝がん、肝不全など重症アルコール性肝障害患者 (severe alcoholic liver disease, SALD) は入退院を繰り返す患者が多く、治療に難渋する。その対策のため現状分析を行う。**【対象・方法】** 最近6年間 (2014.4.1~2020.3.31) のSALDで当院に入院した患者の経過・予後を分析した。**【結果】** 総数211名、男性180名、女性31名 (14.7%) がのべ484回入院した。肝硬変及び非代償性肝硬変が367回 (75.8%)、肝癌が93回であった。初回入院時年齢20, 30, 40, 50, 60, 70, 80, 90歳台はそれぞれ1, 2, 22, 52, 56, 54, 19, 1名で70歳以上が74名 (34.6%) であった。入院回数は1回123名、2回29名、3回22名、4回14名、5回9名、6回6名、7回2名、8回3名、9回2名、他14回 (HCC合併)、29回 (HCC合併) がそれぞれ1名と複数回入院が88名 (41.1%) を占め平均2.3回。再入院はHCC以外ではほぼ全例で再飲酒による肝障害の悪化であり、HCC併発例では飲酒無しでも状態悪化で入院となる例が93回中61回 (65.6%) に及んだ。一回入院当たりの平均レセプト点数は69,854点であり平均回数に乗じると、一人当たり約140万円の医療費を計上した。この間死亡したものは49名で、肝硬変乃至は肝不全が28名57.1%、肝細胞癌10名20%、肺炎3名6%、食道静脈瘤破裂を含む消化管出血4名8%、脳出血2名4.1%、他部位癌 (舌、胃) 等であった。**【考察・結論】** SALD患者は繰り返しの入院が多く、高齢化し、入院費も高額かつ予後不良である。今後精神科、社会福祉士、行政、NPO等との連携による社会的、家庭的環境を含めた複合的改善を諮るべきである。